

兵庫県 の 淡 水 魚 類

森 為 三

兵庫県の淡水魚類は、河川の中流及び下流にすむものは多くは温帯系に属し、その河川の中、北流して日本海に注ぐものと、南流して瀬戸内海に注ぐものとは、所産魚類の種類は大差はないが、南流する方は地域も広く、河川も多数あり、また近畿地区に接しているので、魚類の種類数は幾分か多く、例えば鯉科に就て言えば、カワバタモロコ、ニゴイ、イトモロコ、バラタナゴの如き、近畿地区にすむものが見つかつているが、北流する河川にはこれらの採集記録がない。これが河川の上流にすむものになると寒帯系の魚類が多く、南北より大分異なるものがある。例えば八ツ目鯉科に於ては、スナヤツメは南北共に棲息するも、カワヤツメになると北流する河川に遡るも、南流する河川には知られていない。

鮭科に於ては、鮭、鱒は北流する河川には遡るも、南流する河川にはその記録がない。また陸封種に就ても、ヤマベ、エゾイワナは但馬の円山川、矢田川、岸田川の上流にのみ知られ、之に対してアマゴは南流する大河の上流にのみ棲息し、イワナは現在は南流する千種川の上流だけより採集されていない。またイトウオ科のイトウオは円山川、由良川に遡るも、南流する

河川には知られていない。ミナミトミヨは南流する加古川の上流水上郡成松で採集され、田中茂穂博士により新種として発表された貴重な資料であるが、近時棲息せし溝川を改修せし為め、絶滅の状態となつていゝ。北方系のトミヨが南流する河川に棲息するは、該地方の地質的変遷によるものではないかと思われる。

要するに兵庫県の淡水魚類相は、近畿地区に属すると思われるが、近畿地区に産する鯉科のワタカ、ハス、ゼゼラ、ツチフキ、スゴモロコ、デメモロコ、ピワタナゴ、イチモンジタナゴ、鮎科のアユモドキ等が見つかつて居らず、魚類相は貧弱と云える。またオヤニラミが多産することから、中国地区と類縁関係の深いことを示している。

次に兵庫県の淡水魚類川口より少し遡る汽水魚も含め74種の目録を編して参考に供する。

兵庫県淡水魚類目録

略号 N. 北流する河川に棲むもの S. 南流する河川に棲むもの B. 汽水魚 I. 外国よりの移殖魚

Fam. Petromyzonidae ヤツメウナギ科

1. *Entosphenus japonicus* (MARTENS) カワヤツメ N.

方言 ナナメ (但馬)

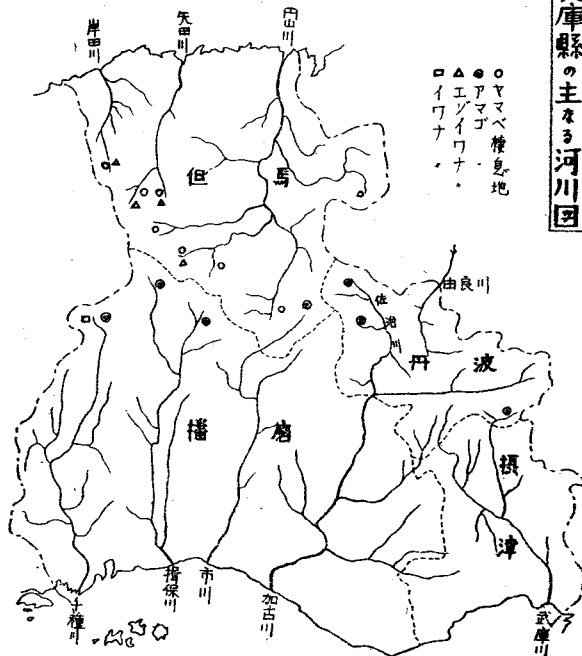
2. *Entosphenus reissneri* (DYBOWSKI) N. S.
スナヤツメ
方言 ヤツメウナギ (加古川、赤穂) ミツクチ (氷上) ナナメ (但馬) 採集されるのは幼生 *Ammocoetes* が多い。

Fam. Clupeidae ニシン科

3. *Konosirus punctatus* (T. et S.) B. N. S.
コノシロ

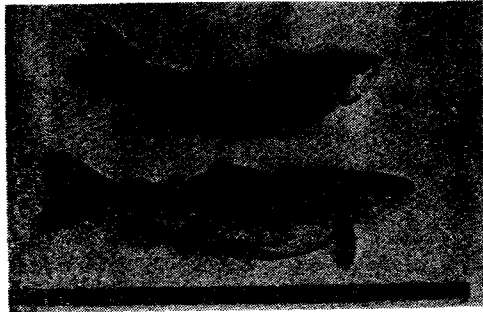
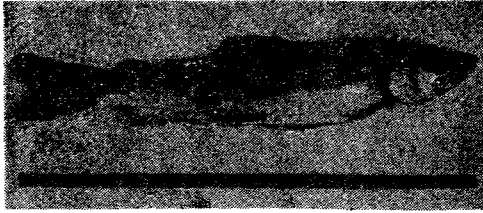
Fam. Salmonidae サケ科

4. *Oncorhynchus masou masou* (BREVOORT) マス N.
5. *Oncorhynchus masou ishikawai* (JORDAN et MCGREGOR) ヤマベ、ヤマメ N.
方言 ヒラベ (但馬)
6. *Oncorhynchus macrostomus* (GÜNTHER) アマゴ S.
方言 アメノウオ (武庫川上流) ヒラベ (氷上、宍粟)



兵庫県的主要河川図

武庫川上流多紀郡後川地方産のものは図の如く全長



200 耗までのものは小判状斑と朱点明瞭に存するが、それより成長すると不鮮明となり、全長 300 耗に達したものは、これらは消失し、背部に小黒点散在し、ピワマスと形態上同様となる。故に後川産のものから云えば、ピワマスとアマゴは同種となる。即ちピワマスはアマゴの Synonym と考える。雄は雌に比し倭小である。千種川及び揖保川上流産のものも同様である。

次に加古川上流佐治川のアマゴは後川産のアマゴが朱点多数あり、中には側線より下方にもあるが、佐治川産は山陰産（江ノ川、天朝川上流産）のアマゴと同様、朱点僅少で多くは側線上の小判状斑の各々に 1 ケずつ位あるに過ぎない。要するに佐治川産のアマゴは、山陰産のアマゴに類似している。

7. *Oncorhynchus keta* (WALBAUM) サケ N.
8. *Salverinus leucomaenis* (PALLAS) N.
エゾイワナ
方言 タンプリ (但馬)
9. *Salverinus pluvius* (HILGENDORF) イワナ S.
方言 タンプリ (宍粟)
10. *Salverinus fontinalis* (MITCHIL) I.
カワマス
城崎郡清滝村で養殖、神戸水道の千刈水源池及び篠山川に放流
11. *Salmo irideus* (GIBBONS) ニジマス I.
有馬温泉及び前記の清滝村で養殖
- Fam. Plecoglossidae アユ科
12. *Plecoglossus altivelis* T. et S. アユ N. S.
Fam. Osmeridae ワカサギ科
13. *Hypomesus olidus* (PALLAS) N. S.
ワカサギ

南側では有馬郡千苺水源池で養殖

Fam. Cyprinidae コイ科

14. *Cyprinus carpio* L. コイ N. S.
15. *Carassius auratus* (L.) フナ N. S.
16. *Hemibarbus longirostris* (REGAN) N. S.
ズナガニゴイ・ウキガモ
方言 スナホリ (但馬) ウキガマ (氷上) キス (篠山)
17. *Hemibarbus barbuis* (T. et S.) ニゴイ S.
方言 ミゴイ・ウキガマ (氷上) ダンキリボ (有馬) セーダツボ (加古川)
18. *Pseudogobio esocinus* (T. et S.) N. S.
カマツカ
方言 スナモグリ・ダンキリボ (加古川) カマスカ・スナホリ (氷上) スナクジ (有馬) スナクイ・ネガマ (多紀) スナホリ・カモツカ (但馬)
19. *Gnathopogon elongatus* (T. et S.) N. S.
タモロコ
方言 スジモロコ (加古川) ヤナギハエ、ヤナギババ、ヤナギノオバハン、ヤナギシヤコ、カンスケ、タチオカンボ (赤穂) モロコ (氷上) モツ、クソモツ、ババシヤコ、ヤマモツ、ゴトンボ (但馬)
本種の亜種になる *Gnathopogon elongatus caerulelescens* (Sauvage) ホンモロコは、千苺水源池で養殖されている。
20. *Gnathopogon gracilis* (T. et S.) S.
イトモロコ
方言 前記と混同している
21. *Pseudorasbora parva* (T. et S.) モツゴ N. S.
方言 クチボソ、ヤナギモロコ (加古川) モロコ、イシモロコ、ミゾゴイ (氷上、多紀) クチボソ、モツ (但馬)
22. *Sarcocheilichthys variegatus* (T. et S.) N. S.
ヒガイ
方言 8 ヤナギハイ、アブラハイ (氷上) アカメモロコ (篠山) チンメ (有馬) アカメ (出石)
23. *Pungtungia hilgendorfi* JORDAN et FOWLER ムギツク N. S.
方言 クチボソ、ナベコスリ (赤穂) クチボコ、クチボソ、イシコツチ (氷上) イシグチ、イシコツチ (多紀) イシグチ、クチボソ (有馬) クチボソ、コメツキ、ムギツキ、ムギコツツキ、スインコンボ、モツ、キンタボウズ、グズロベエ、タモツ、タニシヤコ、スナホリ、トンキボ、ダンギソ、ダンギス (但馬)
24. *Tribolodon hakonensis* (GÜNTHER) N. S.
ウグイ

- イダ(赤穂、氷上、加古川)ユダ(多紀)ホンバヤ、ハヤ(加古川)イス、サクライス(但馬)サクラ(氷上)
25. *Moroco oxycephalus* (BLEEKER)
アブラハヤ N. S.
方言 モロコ、アブラケ(加古川)ヤマモト、ヤマゴ、ゴトンボ、ヌメリ(氷上)ヤマモト、カンスケ(多紀)ヤマガワ、ヤマガホ(但馬)
26. *Zacco platypus* (T. et S.)
ハエ、オイカワ N. S.
方言 ハイ、ハイジヤコ、アガバエ、シロバエ(赤穂)ヤマベ、シラハエ(加古川)♂アサジ、♀シラハイ(氷上、多紀)ハス、ハイボ(有馬)♂アサジ、アサンジ、♀ハイ、ハヤ、シロハイ、シラハエ、シラハヤ、シラハイ(但馬)
27. *Zacco temmincki* (T. et S.) カワムツ N. S.
方言 キンモツ、キモツ、アカキンモツ、ヤナギバエ(赤穂)ムツ、アカムツ(加古川)モト、アカモト(氷上、多紀、有馬)モツ、アカモツ、アカギモツ(但馬)♂アカモツ、♀タルモツ(円山川上流竹田川地方)
28. *Ctenopharyngodon idella* (VALENCIENNES)
クサクイウオ、ソウギヨ I.
支那から我が国に移植されたものであるが、時々加古川の中流で捕えられる。
29. *Hemigrammocyparis rasborella* FOWLER S.
カワバタモロコ
方言 キンシヤコ(加古川)ギンタ、タナゴ(多紀)
30. *Acheilognathus lanceolata* (T. et S.)
ヤリタナゴ N. S.
方言 カメンコ、ガメンシヨ、カメン、ササブナ、ニガブナ、ムシブナ、ギンブナ(赤穂)タナゴシラタ、ボテ(加古川)タナゴ(氷上、多紀)タイジヤコ、カナブナ(有馬)タナゴ、ベタ、アカベタ、キンベタ、ベタキン、タナンギヨ、テンビ、テンピラ、センピラ(但馬)
上記の方言は他のタナゴ類にも称し、方言で種類を区別することは出来ない。氷上地方では繁殖期に雄の婚姻色を呈しているのをサクラタナゴ、その他の場合をクソタナゴ、ババタナゴ、カメタナゴとも称する。
31. *Acheilognathus limbata* (T. et S.)
アブラボテ N. S.
32. *Paracheilognathus rhombea* (T. et S.)
カネヒラ N. S.
33. *Paracheilognathus tabira* (JORDAN et THOMPSON) タピラ N. S.
34. *Rhodeus ocellatus* (KNER) バラタナゴ S.

Fam. Cobitidae ドジョウ科

35. *Cobitis biwae* (JORDAN et SNYDER)
シマドジョウ N. S.
方言 シマシヨシヨ(赤穂、加古川)ササドシヨウ(氷上、多紀)カワラドシヨウ、カワドシヨウ、スナドシヨウ(有馬)ドシヨウ、カワドシヨウ、タケドシヨウ、ササドシヨウ(但馬)
36. *Misgurnus anguillicaudatus* (CANTOR)
ドシヨウ N. S.
方言 シヨシヨ、オドリコ(赤穂、加古川)ドロソボ(氷上)多紀、氷上、但馬では普通ドシヨウと呼んでいる。
37. *Lefua echigonia* (JORDAN et SNYDER)
ホトケドジョウ N. S.
方言 ホトケ、ホツトケ(加古川)アタマイタ、カミサンドシヨウ、ホトケシヤコ(氷上)

Fam. Siluridae ナマズ科

38. *Parasilurus asotus* (L.) ナマズ N. S.
方言 チンコロ、ヘラ(加古川)

Fam. Bagridae ギギ科

39. *Pelteobagrus nudiceps* (SAUVAGE)
ハゲギギ N. S.
ギンコ、ギンシヤ、マントト(赤穂)ギンギ、ギンタ、ギンス(加古川)ギンタ、ギギ(氷上、多紀、有馬)ギギ、ギンタ、ギギタ(但馬)
40. *Liobagrus reini* HILGENDORF アカザ N. S.
方言 アカギギ、アカナマズ(赤穂)アカノ、アカナマズ(加古川)アカシチ、アカヒツ、アカンビ、アカベチヤ、アカラ(氷上)ヒツ(多紀)アカギン、ヒツシ(有馬)テツコン、アカラ、アカエ、アカラコ、ニツコンシヨ、アカナマズ、ミツコンシヨ、ニコシヨウ、ニコシ、アカニコシ、アカネコ、ミコンチヨ、ニコシタ、ニコシチ、ニコシチン、ミコンチ、ミコンシヤ、メコンタ、ムクス、チチンチヨロ、ムチンチヨロ、ミコンチヤ(但馬)

Fam. Anguillidae ウナギ科

41. *Anguilla japonica* (T. et S.) ウナギ N. S.
方言 オナギ(赤穂、加古川)

Fam. Belonidae ダツ科

42. *Ablennes anastomella* (C. et V.)
ダツ B. N. S.
方言 ナングリ(城崎)ダス(赤穂)

Fam. Hemirhamphidae サヨリ科

43. *Hemirhamphus kurumeus* JORDAN et STARKS クルメサヨリ B. N. S.
方言 サヨ(但馬)

Fam. Gasterosteidae イトウオ科

44. *Gasterosteus aculeatus* L. イトウオ N.
方言 テント、テンヨ、テンギヨ (但馬)
45. *Pygosteus sinensis kaibarae* TANAKA
ミナミトミヨ S.
方言 カツオ、サバシヤコ (成松) 日本に方ける
トミヨ分布の西南限であるが絶滅とは遺憾である。
Fam. Cyprinodontidae メダカ科
46. *Orizias latipes* (T. et S.)
メダカ、メタカ N. S.
方言 コメント、コメン、ギンメ (赤穂、加古川) コメン、コメンコ (多紀) ドロメン、コメン、
コメンシヤコ (有馬) コメン、コピン、メメン、ピ
ピン、ミミン、ミメン等の語尾にシヤゴ又はシヤコ
がつく (氷上) コメンシヤコ、チヤンゴ、メメンチ
ヤンゴ、コメンヤンゴ、コンマメン、チヨマメン、
チヨマンゴ、コピンチヤコ、コメンシヤ、コマリン、
コマンシヤコ (但馬)
Fam. Mugilidae ホラ科
47. *Mugil cephalus* L. ボラ B. N. S.
方言 小形のをイナと南北共に呼んでいる。
48. *Liza haematocheila* (T. et S.)
スクチ、メナダ B. N. S.
方言 シュクチ (但馬)
Fam. Ophicephalidae カムルチー科
49. *Channa argus* (CANTOR) カムルチー I.
方言 チョウセンドシヨウ、カモチ (加古川) 加
古川水系で時々漁獲される。
50. *Channa maculata* (LACEPEDE) ライヒー I.
方言 タイワンドシヨウ (摂丹地方) 本県に於て
は本種の方が各地に移殖され、西宮夷神社境内の池
にては繁殖し、大なるは7.80匁に達するものがある。
カムルチーとの相違はカムルチーは脊鱗々条数
48—50、臀鱗々条数31—33、側線上の鱗数61—63に
対し、ライヒーは脊鱗々条数 43—44、臀鱗々条数
26—30、側線上の鱗数56—58で凡てそれらの数は少
ない。
Fam. Serranidae スズキ科
51. *Lateolabrax japonicus* (C. et V.)
スズキ B. N. S.
方言 ハネセイゴ (赤穂) スズキ (但馬)
52. *Coreoperca kawamebari* (T. et S.)
オヤニラミ N. S.
方言 ヨツメ、カワメバル、オイシヤハン (赤穂)
ヨツメ、オサキ、オサガキ、ソコテン (氷上) メコ
テン (多紀) ヨツメ (有馬) ヨツメ、オコゼ、シヤ
ン、オサンコ、オサコヨツメ (但馬)
Fam. Theraponidae シマイサギ科
53. *Therapon oxyrhynchus* (T. et S.)
シマイサギ B. N. S.
Fam. Sillaginidae キス科
54. *Sillago sihama* (FORSKAL) キス B. N. S.
方言 キスゴ (加古川)
Fam. Carangidae アジ科
55. *Trachurus japonicus* (T. et S.) マアジ B. N.
方言 アジ (城崎)
Fam. Leiognathidae ヒイラギ科
56. *Leiognathus nuchalis* (T. et S.)
ヒイラギ B. N. S.
方言 シイノハ (城崎)
Fam. Sparidae タイ科
57. *Mylio macrocephalus* (BASILEWSKY)
クロダイ B. N. S.
方言 チヌ (加古川) チンダイ (城崎)
Fam. Eleotridae ドンコ科
58. *Mogurnda obscura* (T. et S.) ドンコ N. S.
方言 ドツチンコ、テツチン、ドモコ、ウシヌス
ツト (赤穂) ドンコウ (加古川) ヌスンコ、ドスン
コ、ヌスンパチ、ドスンパチ、パチ、パチンコ、ガ
ンツ、ドカン、ケンケツ、ババタ (氷上) ヌスン
(多紀) ガンバ (有馬) グズ (但馬)
Fam. Gobiidae ハゼ科
59. *Rhinogobius giurinus* (RUTTER)
ゴクラクハゼ N. S.
方言 グズ (但馬)
60. *Rhinogobius similis* (GILL) ヨシノボリ N. S.
方言 テツチン、テツチンコ、トツチン (赤穂)
ダボ、ゴリ、イツサンダイ (加古川) チチンコ、テ
ツチンコ、イツサンコ、ケンケツ、テチコ、ゴリ、
ゴリン、チンドカン、ラリコ (氷上) ゴリン (多紀)
オカツ、ヨシバリ、サンダイボ (有馬) グズ、ノウ
カン、ノロカン、グズツパ、チチンコ、チチン、チ
チンカブ、チチコ、ババタ、グズババ、チチクボ、
チツチヤン (但馬)
61. *Chaenogobius castanea* (OSHAUGHNESSY)
ピリンゴ N. S.
方言 ダボ、ダボハゼ (加古川)
62. *Chaenogobius urotaea* (HILGENDORF)
ウキゴリ N. S.
方言 テツチン、カツチン (赤穂) ハゼツパ (加
古川) グズ (但馬) 方言はヨシノボリなどと混同し
ていることが多い。
63. *Acanthogobius fluvimanus* (T. et S.)
マハゼ N. S.
方言 ハゼ (赤穂) グズ、ハゼ、ハゼグズ (但馬)

64. *Glossogobius giuris brunneus* (T. et S.)
ウロハゼ N. S.
65. *Leucopsarion petersi* HILGENDORF
シロウオ、ギヤブ N.
方言 シラス(城崎)
66. *Tridentiger obscurus* (T. et S.) チチブ N. S.
方言 ドチコ、ゴエダ、アメント、モコ(赤穂)
ハビ(加古川) ソウカン、ソロカン、グズ、クログ
ズ、アイグズ、ババグズ、ヘソグロ、ドウクビ、チ
チソコブ、グズロベ、ヘログス、ヒヨコグズ(但馬)
67. *tridentiger trigonocephalus* (GILL)
シマハゼ N.
68. *Sicyopterus japonicus* (Tanaka)
ボウズハゼ S.
Fam. *Platycephalidae* コチ科
69. *Platycephalus indicus* (L.) コチ B. N. S.
Fam. *Cottidae* カジカ科
70. *Cottus pollux* (GÜNTHER) カジカ N. S.
方言 アイアケ、アブラドモ、ヌルヌルカツチン、
カジコ(赤穂) オコゼ、マゴリ(加古川) アブラガ
ンツ、ヌルガンツ、ヌルガン、アブラドカン、アブ
ラケンケツ、アブラスツケン、アマガン、アメガ
ン、ホイホイ、ホウロク、ホイロク、ヨダクリ、ヒ
ヨイタ、ヒヨツトコ、カワラバタ、アブラバタ、
オカネ(氷上) カジカ(多紀) ゴロウハチ(有馬)
グズ、アイカケグズ、バタ、ババカワ(但馬) 但
馬ではハゼと名称混同せるところがある。
71. *Cottus kazika* JORDAN et STARKS
カマキリ N.
方言 但馬ではカジカと同様の方言を用いてい
る。
Fam. *Bothidae* ヒラメ科

2. *Paralichthys olivaceus* (T. et S.)
ヒラメ B. N.
方言 カレイ(城崎) 南流する河川の川口にはカ
レイが遡るとのことなるも、実物を見ないので種名
判定は出来ない。
Fam. *Tetraodontidae* フグ科
73. *Fugu niphobles* JORDAN et SNYDER
クサフグ B. N. S.
方言 フグ、スナフグ(赤穂) フグ(城崎)
74. *Fugu rubripes* (T. et S.) トラフグ B. N. S.
方言 オオブグ、モンツキ(赤穂) フグ(城崎)

参 考 文 献

- 宮地伝三郎 昭和12年 京都府下の淡水魚、京都府史蹟
名勝天然記念物調査報告第16冊 1~45頁図版5枚
片山 正夫 昭和16年 円山川の魚類 兵庫県中等教育
博物学雑誌第7号 363~379頁図版5枚
山本 義丸 昭和24年 氷上郡の淡水魚類 氷上の自
然第1集32~50頁
原 弘平 昭和24年 赤穂郡産淡水魚類誌1~7頁
樋口 繁一 昭和27年 多紀郡の魚類 篠山農業高等
学校生物倶楽部会誌第1号 24~33頁挿絵34
樋口 繁一 昭和28年 摂丹地方の淡水魚類 摂丹地
区高校研究紀要I 1~26頁挿絵36
森 為三 昭和28年 円山川上流水ノ山山麓採集魚
類に就て 兵庫生物第2巻第3号 126~127頁
森 為三 昭和28年 兵庫県美方郡八田川上流のイ
ワナに就て 同号127~128頁
森 為三 昭和29年 千種川上流のイワナに就て
同第2巻第3~4号 221~222頁
山本 佳孝 昭和29年 加古川水域の淡水魚類に関す
る研究 著者自刊1~47頁

317ページより

- Hadorn and Mitchell (1951): Properties of
Mutants of *Drosophila melanogaster* and
Changes during Development as Revealed by
Paper Chromatography. Proc. N.A.S. Vol. 37
- 藤井・川辺・奥田・木本・金久・前田(1953): 猩々蠅
の棒眼の発生遺伝学的研究 I、蛹期におけるニンヒ
ドリン反応陽性物質及び螢光物質。 遺伝学雑誌
Vol. 28 No. 4
- 前田(1956): 猩々蠅に見られる螢光物質について、
兵庫生物 Vol. 3 No. 3

註1 ninhydrin 反応

アミノ酸・ポリペプチド或は蛋白質の水溶液に小

量の ninhydrin を加えて熱すると、赤色・紫青色或は
黄色を呈する極めて鋭敏な呈色反応であるが、この反
応はアミノ酸でなくとも酸化されやすいアミノ基・イ
ミノ基を有する物質でもおこりうる。

註2 兵庫生物 Vol. 3 No. 3 P 144 参照

註3. 4.

濾紙の一端につけた試料を溶媒で一方向に展開させ
る(一次元法)だけでは Rf 値が似ていて分離しにく
い物質でも、異つた溶媒で展開すると分離するので、
正方形の濾紙の一隅の原点に試料をつけ最初第一の溶
媒で一次元展開し、風乾後 ninhydrin を吹きつけるこ
となく、第二の溶媒で始めの展開方向と直角の方向
に展開させ乾燥後発色させる、これが二次元法であ
る。